

(様式第4号)

史跡上田城跡整備実施計画検討委員会 会議概要

1	審議会名	史跡上田城跡整備実施計画検討委員会
2	日時	平成30年3月12日 午後1時00分から午後5時00分まで
3	会場	上田市教育委員会 第一会議室
4	出席者	渡邊定夫委員長、川上元副委員長、浅倉有子委員、栗村道子委員、千田嘉博委員、平井聖委員、三井圭司委員、宮本長二郎委員、吉田博宣委員、県教委
5	市側出席者	事務局（教育長、教育次長、生涯学習・文化財課長、都市計画課長、観光課長、博物館長、文化財保護担当係長2名、街路公園整備担当係長、ほか
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 4人
8	会議概要作成年月日	30年3月20日

協議事項等

- 1 開 会（生涯学習・文化財課長）
- 2 あいさつ（教育長）
- 3 協議事項
 - (1) 議題の概要（事務局からの説明）
 - ① 本丸堀法面崩落防止対策工事について
 - ② 整備基本計画の推進について
 - ③ 発掘調査の成果と今後の予定について
 - ④ 報告事項（VR 上田城アプリについて）
 - (2) 協議概要（議題に対する質疑応答）
 - 議題①について
 - （委員） 本丸堀の崩落箇所の復旧方法について、地表面の復旧方法は？
 - （事務局） 植生シートを用いる計画である。
 - （委員） 崩落箇所に補充する盛土の縁辺部に栗石を使用するのは、土の城である上田城の景観にそぐわないのではないかと。前栗と呼び、こうした施工は江戸時代から見られるので、旧来の伝統工法と誤解される心配がある。
 - （委員） 板材で波を防ぐことで、法面浸食の防止にかなりの効果がある。これを採用して工法を再検討してほしい。
 - （委員長） 法面復元のために粘性土を用いるとあるが、この土は樹木の生長を促すものである。版築や防水シートを用いる工法も検討してほしい。
 - （副委員長） 上田高校の堀を石垣で固めてしまっているが、評判が良くない。やはり旧来の姿での復旧が好ましいと思う。
 - （委員） 栗石を使う工法は再検討すべき。ジオテキスタイル工法はどうか。なお、法面の発掘調査が必要になることも注意してほしい。
 - （委員長） 委員の皆さんの意見を参考に、工法を再検討してほしい。
 - （事務局） 板材を用いる工法を検討し、再度委員会と協議したい。
 - 議題②について
 - （委員） 整備基本計画にのっとり、市民会館の解体は急ぐべきである。教育委員会として武者溜りの整備を計画どおりにきちんと進めてほしい。史跡を保存整備する上で何が大切なことなのか、優先順位をきちんと考えてほしい。
 - （事務局） テニスコートや体育館の移転等を含め、解体は適切な時期を見計らってすすめていきたいという思いがある。近い将来、テニスコートが移転した場合に、跡地は解体瓦礫の搬出ルートとする想定もしている。決して旧市民会館を解体しないということではない。
 - （委員） 二の丸橋は解体瓦礫の搬出経路として使用できないとのことだが、仮設橋をかけることは文化庁も許可してくれるはず。五稜郭の事例を参考にしてほしい。搬出ルートは複数の案を再検討してほしい。

○ 議題③について

(委員) 発掘調査の公開が必要であり、来年度計画している発掘現場でも同様である。

(委員) 金箔瓦が出土したとのことであるが、報道発表資料で金箔瓦は豊臣秀吉が使用を許したものとあるが、こうした見解を教育委員会が公の場面で引用するのはいかななものか、もっと史実に基づいて紹介をすべきと考える。また、石切場の調査についても、「何を」「どのように」調査するのかを明白にして取り組むべきである。古い石切場は新しい石材の採掘により失われるのがふつうである。

(事務局) 発掘調査の公開については、今後も継続して取り組んでいく。また、石切場の調査については、指摘をいただいた点について、昨年度の調査でも課題として認識をしている。これから実施する調査の際には、現地を精緻に観察して、成果をあげたい。

○ 議題④について

(委員) CG 復元画像で本丸櫓を下見板張りにしなかった理由は？

(事務局) 正保4年(1647)の絵図に描かれた櫓を参考にしている。

(委員) この絵図には間違いが多い。CGの櫓は史実に基づいたものとは言えない。

4 閉会(教育次長)